

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Preconception vitamin D intake and obstetric outcomes in women using assisted reproductive technology: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

生殖補助医療を受けた妊婦における妊娠前ビタミン D 摂取量と周産期予後の関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2022 DOI: 10.1186/s12884-022-04861-2

筆頭著者名: 経塚 標

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、生殖補助医療妊婦における妊娠前のビタミン D 摂取と周産期予後の関連について調べました。

方法:

エコチル調査における生殖補助医療にて妊娠された単胎妊婦を対象としました。妊娠前食事の内容から、妊娠前のビタミン D 摂取量を計算し、5グループに分類しました。ビタミン D 摂取量が平均的な量のグループを参照としたときのビタミン D 摂取量が低いグループ、ビタミン D 摂取量が高いグループの早産、低出生体重の発症リスクについて調べました。

結果:

本調査参加者のうち、生殖補助医療にて妊娠した 2698 人が解析対象者となりました。解析の結果、妊娠前からビタミン D の摂取量が多いグループでは、平均的であったグループに比べて、37 週未満の早産のリスクが 2.1 倍であったことが明らかになりました。

考察(研究の限界を含める):

ビタミン D 摂取は生殖補助医療における着床率を上昇させると言われています。一方で今回の結果により妊娠前のビタミン D の摂取量が高いことにより早産のリスクが上昇することが示され、妊娠前の適切な栄養摂取の重要性を示すものと思われます。本研究の限界はビタミン D の血中濃度を測定していない点です。ビタミン D は日光によっても体内で合成されるため、食事によるビタミン D 摂取量と血液中のビタミン D の値には乖離がある可能性があります。

結論:

本研究から、妊娠前の過剰なビタミン D 摂取は周産期予後を悪化させる可能性が示唆されました。